



# 亀崎と繋がるエン

- 亀崎の呉服店の生地を活用したインスタレーション -





## 1. 背景

プレゼミで橋本雅好研究室 OG の水谷友美さんが過去に 取り組んだ卒業研究の話を聞いたことがきっかけで亀崎を知る。2021 年 1 月にまち歩きをして亀崎の歴史や文化に興味をもった。



【写真 1】左：亀崎駅 中：大坂 右：サヤ

## 2. 調査

亀崎は港町のため、昔は海運業が盛んで江戸とのつながりがあった。行きに酒や酢を積み、帰りには肥料を積んでくるという方法で半田地域の商業の発展に、大きな役割を果たしていた。また、明治 11 年 2 月の資料から亀崎には繊維業が多かったことや、亀崎織工場があったことが分かり、亀崎に呉服文化があったことが明らかになった。

繊維業	本業戸数	兼業戸数
呉服太物商	4	2
綿打職	9	
木綿小売	2	
古着商	15	4
仕立物職	5	



亀崎織工場

〈漁の作業着〉

・ドンザ - 明治初期から昭和 10 年代にドンザを着た。腰までの長さの綿入れ筒袖の着物で「しりきれ」とも言った。

〈普段着〉

夏 - 袖なしの木綿の着物を着る人が多くいた。帯を使わず、紐で結ぶだけのため涼しく快適だった。

冬 - 腰巻きを 2 枚重ねにして長じゅばんを着た。

〈黒鍬（出稼ぎ）の作業着〉

・ハラカケとモモヒキ - 代表的な作業着で紺染め木綿製。

・下着 - ジュバンと呼ばれるもので、休憩時に用いられた。

・手拭い - 白木綿で作り作業時の鉢巻きに使った。

## 3. 目的

現地調査をしてまちに住んでいる方に話を伺うと、「亀崎を活気あるまちにしてほしい。」「若い人にまちを盛り上げてほしい。」という想いがあることを知った。そこで、亀崎の歴史・文化に触れたインスタレーションとワークショップを開催することで多くの人に亀崎にきて頂くきっかけをつくる。そして、この企画を通して亀崎の魅力に触れ、興味をもって頂くことを目的とする。

## 4. スケジュール

本企画の 2022 年 1 月から 11 月の撤収までの年間スケジュールを【表 2】に示す。

1 月	□街かどサロンかめともの訪問、まち歩き
2 月	□現地調査、史料による調査
3 月	□企画案出し、布ボールの試作
4 月	□企画案決定、インスタレーション案決定
5 月	□展示の本制作、展示構成の検討、ワークショップの試作
6 月	□木枠の検討、ワークショップ案決定
7 月	□フライヤー作成、告知
8 月	□木枠の制作作業開始
9 月	□展示用パネルの作成、印刷
10 月	□設営、イベント開始
11 月	□撤収

【表 2】

## 5. インスタレーション作品

「亀崎と繋がるエン」

展示物の材料（丸く切り取った布の生地からなる）・形状の“円（えん）”と、今回のプロジェクトで繋がった“縁（えん）”を掛け合わせたタイトルにしている。

- 場所の提供 -

元呉服店（旧藤友呉服店）かめともの蔵をお借りする。この場所は現在、NPO 法人まちおこしの会によって地域とともに育つことなどを目的に運営されている。

- 生地を購入 -

亀崎で古くから続く“笹屋呉服店”で布の生地を購入。



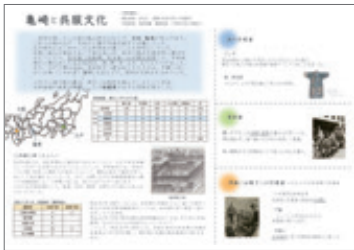
【写真 2】左：街かどサロンかめとも 中：蔵（2 階吹き抜け） 右：笹屋呉服店

展示物について、試作を繰り返し 3 種類【写真 3】に決定。発泡スチロール球（75mm ～ 150mm サイズ）を使い、布の円形パーツを組み合わせていく。手作業のため制作時間がかかってしまうが、早い段階で企画内容が決まったこともあり、この案で進めた。この布ボールは計 110 個制作した。



【写真 3】

展示に加えてパネル【図 2】で展示作品のことや、呉服文化についてまとめ、亀崎の歴史・文化を感じてもらう。



【図 2】

展示は蔵の吹き抜けを利用し、1 階から広がっていくような構成に決定した。制作した布ボールを吊るすための木枠を 2 枚（上段 1920×1300、下段 1300×850）制作し、既存のペンダントライトを上下で挟むように設置。木枠の内側にはテグスで格子状に 50 mm ピッチで張り、布ボールを格子の交点に結び付けていった。



## 6. ワークショップ

展示と同じく呉服の生地を使ったワークショップとし、体験型で亀崎の呉服文化を知ってもらえるようにした。試作をした結果、対象者とした小学生でも簡単に制作できるリースづくりに決定。また、参加費無料・申し込み不要にすることで気軽に来てもらえるようにした。

## 7. 期間

展示 2022 年 10 月 15 日（土）～ 30 日（日）

（水・木曜日は除く）

ワークショップ 展示期間中の土日（22.23 日は除く）

時間 10:00 ～ 16:00

場所 街かどサロンかめとも

愛知県半田市亀崎町 4 丁目 141

## 8. 広報

フライヤーの作成、Instagram のアカウントの作成・運営を行った。また、展示初日（10 月 15 日）に中日新聞記者からの取材を受け、中日新聞知多版（2022 年 10 月 16 日）に掲載された。



## 9. イベント期間

来場者に直接、企画詳細や呉服文化の説明を行った。



## 10. アンケート調査

展示 12 日間で展示の来場者は 631 名、ワークショップは 35 名の方に参加して頂いた。結果の一部を以下に記す。

○展示へのご意見・ご感想

呉服文化が亀崎にあるということを知りませんでした。

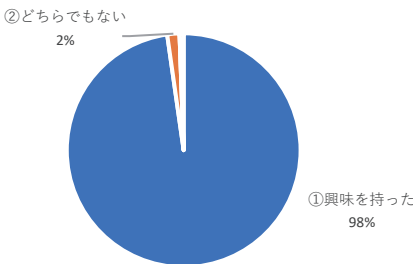
1 枚 1 枚は地味な古着もとても味のあるある作品にうまれかわっていて素晴らしい。など

○ワークショップへのご意見・ご感想

自分の作業が多めのワークショップで楽しかった。

家にかざりたい。など

○このイベントを通して、以前と比べ亀崎に興味を持ちましたか？



## 11. 企画結果・分析

亀崎に住むお年寄りの方でも「呉服の歴史があるのは初めて知った。」と仰っている方もいて、改めてこの“呉服”をテーマにして亀崎の今まで着目されていなかった歴史を知って頂くことができた実感した。また、期間中の土・日はワークショップも同時に開催したことにより、展示に興味を持った方や家族連れに多く参加して頂けた。この企画を通して、幅広い年代（特に若い世代）に亀崎の魅力を伝える目的が達成したと考えられる。